プロジェクト研究13　周産期ケアーと両親教育の展開に関する研究

夫立会い分娩の経験別に見た育児への関わりについて(2)

研究第1部　千賀悠子・堀口貞夫
研究第4部　水野清子
研究第5部　望月武子
研究協力者　曽根秀子
(総合母子保健センター保健指導部)
佐藤禮子・中野恵美子
松本昌子

要旨
目的：この研究は、伝統的養育システムや養育環境が急変していく現代にあって、子どもを出産し新しい家族を形成していく夫婦が、親として・夫婦としてそして一人の成人としてどのような意識の変化があり、どのような役割をとっていくのかを調査。
調査内容と方法：子どもの出生後1年間の親の育児、子どもとの関わり（愛着行動ーあやす、抱く、話しかける）、子どもと一緒にいる時の親自身の気持ち（子どもへの肯定的感情）、子どもが生れてからの生活の変化への適応、パートナーとのコミュニケーション、パートナーとの関係や親密度、自分自身の自尊感情などについて。子どもの出生1カ月時、6カ月時、1年時の計3回継続して同一の調査対象者に郵送調査。対象は、東京ー愛育病院で出産をした夫婦320 組。今報告は子どもの出生6カ月時の父親のアンケート調査結果。集計対象数は131 例。
結果：対象全体の6カ月時の傾向は、子どもとの関わり・子どもの世話などをよくしている。子どもへの肯定的感情も高い。出生1カ月時の調査と比べ関わりも増え、肯定的感情も上昇、子どもに対する心配も減少傾向。対象を立会い分娩の経験別に検討すると、立会い分娩群は対照群に比べ子どもとの関わり・子どもの世話をよくしており、子どもへの肯定的感情得点も高く、子どもに対する関心が全体的に高い傾向がある。また、生活の変化に対する適応性も高く、パートナーとのコミュニケーションもよくとっており、自尊感情も高い傾向がある。

見出し語：父親、乳児、夫立会い分娩、育児、愛着的行動、自尊感情

Study on the Perinatal Care and Parents Education
Care of their infants with or without attending wife's births (2)

Yuko CHIGA, Sadao HORIGUCHI,
Kiyoko MIZUNO, Takeko MOCHIZUKI,
Hideko SONE, Reiko SATO,
Emiko NAKANO, Masako MATSUMOTO

ABSTRACT
Purpose: Recently in Japan, the traditonal nursing system or environment is changing rapidly, we sutdy about the ways in which parents are the care of their infant and the circumstances
of their daiy lifestyle, and a change of consciousness or a role of a couple since their infant was born.
Contents of the investigation and its method: Taking care of infant, concern for infant (behavior of attachment--holding, playing, talking), parents own feelings when they are with their infants, adaptability to the change of their lifestyle, communication with a partner, relationship and intimacy with a partner, their own self esteem, etc. Mailing a questionnaire to the same objects three times at one month, 6 months,and one year after the birth . The investigation objects are 320 couples who delivered their infants at The Aiiku Hospital in Tokyo. This report is the investigation result of a questionnaire to the fathers whose infantas are 6 months old. The total of the objests is 131.
Results: Tendency of the objects whose infants are 6 months old is that concerning and taking care of infant are good. Affirmative feelings to infant are also high. Comparing with the investigation after 1 month, concerns are increased, affirmative feelings become higher,anxieties about infant are showing a tendency to decrease. Cosidering with or without attending wife's birth: In the attending group wife's birth, concerning and taking care of infant are better, the scores of affirmative feelings are higher than those without attending group, and concerns for infant are showing a tendency to increase as a whole. And adaptability to the change of lifestyle is also higher, communication with a partner is better, and self esteem tends to increase.

KEY WORDS: father, infant, attending wife's tirth, care, attachment, self esteem

Ⅰ　目　的

出産準備教育や乳幼児のための家族への援助のあり方を検討するための資料として、対象となる妊産婦とその夫（パートナー）に次のような観点で意識調査を実施する。核家族など価値観の著しく変化する現代の都市にあって、夫婦（カップル）が新しく参加する家族の一員を迎えるとき（子どもの誕生）、親として夫婦（カップル）として、そして一人の成人として、どのような意識の変化があるのか。また、どのような役割を取っていくのかなどを調査し考察する。

Ⅱ　調査内容と方法

この研究では夫婦に郵送によるアンケート調査を実施し、子どもが誕生してから出生１年後までの夫婦の子どもへの関わり・育児・生活に対する適応性・パートナーとのコミュニケーション・自尊感情などについて考察する。1988年度より1990年度にかけて調査対象を同一にし、出生後１カ月時、出生６カ月時、出生１年時の計３回継続的に調査。

1　調査資料の分析視点（今年度の報告）

夫婦で参加する出産準備教育を受講し、かつ立会い分娩を経験した夫婦と、立会い分娩を経験をしなかった夫婦の間では、

（１）育児や生活に対する考え方などに違いがあるか、違いがあるとすればどのような特徴があるのかを出生６カ月時に調査をし、出生後１か月時と同様に検討。

（２）また、出生後１か月時と出生６カ月頃では意識や育児に関してどのような変化があるかを検討。

今年度も前年度同様に父親（夫）の資料より報告。

2　対　象

対象は夫婦で参加する出産準備教育を実施している東京ー愛育病院で、1989年1 月より出産をした産婦とその夫の３２０組。今回の出生６カ月時の調査対象は、継続的調査研究なので３２０組の内、出生後１カ月のアンケートに回答のあった２２７組（夫婦で回答-208、妻のみ-19)。この２２７組に子どもの出生６カ月時にアンケートを郵送。

出生６カ月時のアンケートの回答数は１４３例（回収率63%-- 前年度の227 例に対して）。夫婦ともに回答のあったのは１３１例、妻のみは１２例である。

前年度は妻のみで夫の回答がなかった１９例中、今年度の調査では６例の夫から回答があり、前回同様に妻のみの回答は２例、残り１１例は今年度は夫婦とも回答がなかった。よって、前年度の出生後１カ月時の調査では回答がなかったが今回の調査で新しく回答の合った６例を加えて集計。６例中２例は夫立ち会い群で４例が非立会い群であり、両群の回答数の比率は約１：２であること（48:83 例）。また少数例であるので前年度の両群の間の特徴および差異などに顕著な影響をもたらさないことを確認

3　調査内容

調査内容は出生後１カ月・６カ月・１年時を通して変わらないが、子どもの発達・成長によってしだいに親の関わり方などが変わると考えられる項目については設問の表現をかえ、また、新規に調査項目を追加し本文では（新）と表示

（１）子どもとの関わり

① 子どもとの関わり
あやしたり遊んだり話しかけること

② 子どもの世話
日常の世話、具合の悪い時などの世話

③ 子どもに関しての心配
赤ちゃんのことが絶えず心配か、順調に育っているか心配かなど

④ 赤ちゃんと過ごしている時の気持ち

（２）新しい家族がスタートしてからの生活への適応、自分自身の気持ちなどの変化

① 生活への適応
子どもが生まれてからの生活環境の変化に対する戸惑い

② 家事の協力、協力の仕方の自己評価

③ 妻とのコミュニケーション
妻に対する気持ちや態度（精神的援助）
夫婦で共有する経験の変化とその受容の過程、夫婦での話し合いや相談をしあうか

④ 自分自身の気持ち等の変化
妻との親密性、共感性、役割意識、自己確信、達成への意欲

Ⅲ　結　果

集計対象数などは表１に示す。前述した調査内容について立会いの経験別に差異があるかどうかを検討した。なお、この６カ月時のアンケート回収数が少ないので、

今回は初めての子どもの父親かどうか（妻の経産別）によるクロス集計は行わなかった。

1　集計の対象（表1）

夫婦から回答のあった143例の夫の資料を集計対象とした。立会い群は48例（36.6%）、非立会い群は83例（63.4%）。この比率は、前年度回答があった比率とほぼ同じである（34% と66%）。また、当病院の年間の夫立会い分娩の割合ともほぼ同比である。父親の年齢層にも有意の差がないことは既に報告した。

2　子どもとの関わり

注）＊1カ月時－出生1カ月時の調査
　　＊6カ月時－出生6カ月時の調査

＜子どもとの関わり＞

（1）　あやしたり、スキンシップのある遊びをしているか（表2）

①　6カ月時の立会い群・非立会い群の父親の比較

［よくしている・どちらかというと赤ちゃんをあやしたり遊んでいる］父親は、立会い群94%、非立会い群92%で両群間に差異はなく，多くの父親は子どもをあやし・遊んでいる。特に［よくあやし、遊んでいる］父親の割合は、立会い群60%・非立会い群47%で、立会い群の方がやや多い傾向。

②　1カ月時と6カ月時の両群の比較

両群ともに1カ月時にはあやしたりすることがなかった父親が6カ月時には減少し、あやしたり・遊んでいる割合が多くなってきている。

（2）　赤ちゃんに話しかけているか（表3）

①　6カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともに［よく話しかけている］父親が多く、立会い群83%・非立会い群70%。

②　1カ月時と6カ月時の両群の比較

両群ともに［よく話しかけている］父親の割合が有意に増加。立会い群では59%から83%に、非立会い群では47%から70%に増加。

＜子どもの世話＞

（3）　赤ちゃんの世話をしているか（表4）

①　6カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともに［している・どちらかというと世話をしている］父親が多く、立会い群85%・非立会い群78%。「している」父親の割合は立会い群44%・非立会い群31%で、前者の方がその割合が多い傾向がある。また「どちらかというとしていない・していない］割合は立会い群15%・非立会い群22%で、非立会い群の方が世話をしていない割合が多い傾向がある。

②　1カ月時と6カ月時の両群の比較

立会い群では［していない］割合がやや増加し、非立会い群では［していない］割合がやや減少。立会い群では［している］から［どちらかというしている］に変化し、非立会い群では［していない・どちらかというとしていない］から［どちらかというとしている］に変化してきている。世話の内容は両群ともに同傾向を示しており、一緒に入浴－42%、おむつや衣服の着替え－37%、ミルクを飲ませたり・食事の世話－34%。

（4）　具合の悪い時や泣きやまない時の世話（表5）

①　6カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群とも［世話をする］が多く立会い群67%・非立会い群58%。［あまり世話をしない］とした父親は、立会い群2%・非立会い群8%で、立会い群の方が世話をする父親がやや多い傾向がある。

②　1カ月時と6カ月時の両群の比較

立会い群の1カ時には［世話をする］が11%だったが6カ月時には66%に増加し、［世話をしない・どちらかというとしない］割合が57%から2%に有意に減少。非立会い群も［世話をする］31%から58%に、［世話をしない・どちらかというとしない］割合が25%から8%に有意に減少。

1カ月時には有意に非立会い群の方が［世話をする］父親の割合が多かったが、6カ月時には立会い群の方が有意ではないがやや多い傾向を示している。

＜子どもに関しての心配＞

（5）　赤ちゃんのことが絶えず心配か（表6）

①　6カ月時の立会い群・非立会い群の比較

立会い群では［どちらかというと心配になる・心配になる］割合が多く56%・非立会い群では39%で、立会い群の方が心配になる割合が多い。

立会い群の特徴には、［どちらかというと心配になる］が35%、次が［心配にならない］33%に見られるように、子どものことが気がかり・心配に思う父親が両極に別れる傾向が見られる。非立会い群では。［どちらかというと心配にならない］が42%で、あとは19%づづである。［心配にならない］割合は立会い群のほうがやや多い傾向にあり33%である。

②　1カ月時と6カ月時の両群の比較

両群ともに［心配していない］割合が有意に増加し、立会い群は8%から33%、非立会い群では5%か

ら１９％に。

（６）　順調に育っているかどうか心配か（表７）

①　６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともに［どちらかというと心配・心配になる］とした割合が多く、立会い群６７％・非立会い群７３％。［心配にならない］という割合は立会い群１０％、非立会い群２％で前者の方がその割合が有意に多い。

②　１カ月時と６カ月時の両群の比較

両群ともに［心配している］割合は減少しているが、［どちらかというと心配している］［どちらかというと心配していない］割合が増加しており、１カ月時よりゆとりもでき心配の程度が減少している傾向がある。

非立会い群では［どちらかというと心配していない］割合が８％から２４％に有意に増加。

（７）赤ちゃんのことで気掛かりなこと（新）

①　６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともに［気掛かりなことがない］割合が多く、立会い群７７％・非立会い群８８％。

子どもと過ごしている時の気持ち（愛着）

（８）　赤ちゃんの相手をしたり・世話をしたりするのが楽しいか（表８）

①　６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともにとても［楽しい」という父親の割合が多く立会い群７７％・非立会い群６０％。６カ月時でも［どちらかというと楽しくない］という父親や非立会い群に５％、立会い群では１カ月時と同様に皆無である。

②　１カ月時と６カ月時の両群の比較

６カ月時は、立会い群では［楽しい］という父親の割合がやや減少し、非立会い群では［楽しい］という割合がやや増加しているが有意差はない。

（９）　赤ちゃんと過ごしている時の気持ち（表９）

各項目を５段階評価をし各項目の平均をに示した。

①　６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

［不安になる］［楽しい］［エネルギーを感じる］という項目では、立会い群の方が非立会い群に比べ肯定的得点を示しその平均得点が有意に高い。

②　１カ月時と６カ月時の両群の比較

両群とも全体的に各項目で肯定的得点を表し、その平均得点は１カ月時よりも上昇している。

立会い群では、［可愛い］［わずらわしい］［負担に感じる］の項目では、肯定的得点ではあるが１カ月時に比べその得点がやや降下している。非立会い群では、［イライラする］［自信がない］［負担に感じる］の項目では、肯定的得点を示しているが、６カ月時にはその得点がやや降下している。

（１０）　子ども好きかどうか

①　６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群とも子どものことが［どちらかというと好き・好き］という父親が多く立会い群９２％・非立会い群８８％である。

②　１カ月時と６カ月時の両群の比較

両群ともに子ども好きの割合に有意の増減は認められないが、［どちらかというと好き］の割合がやや増加している一方で、両群ともに［どちらかというと好きではない］割合もやや増加している。

３　新しい家族がスタートしてからの生活への適応、自分自身の気持ちの変化

<生活への適応>

（１）　生活の変化に戸惑いを感じているか（表１０）

①　６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群とも［戸惑っていない］父親の割合が多く、立会い群６７％・非立会い群６３％。

②　１カ月時と６カ月時の両群の比較

１カ月時に比べ立会い群では生活に対する戸惑い感に余り変化がない。非立会い群では［どちらかというと戸惑っている］割合が有意に増加。

<家事の協力、協力の仕方の自己評価>

（２）　家事などの協力をしているか（表１１）

①　６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともに、［どちらかというとしている・している］割合が多いが、両群ともに３層になっていて［どちらかというとしていない］割合も立会い群３１％・非立会い群４０％と、協力ができない夫たちもいる。［していない］割合は有意に非立会い群の方が多い。

②　１カ月時と６カ月時の両群の比較

立会い群では１カ月時に協力［している］割合が３８％だったが６カ月時では３１％に減少している。また、［どちらかというとしていない］割合が１６％から３１％に増加している。非立会い群でも［している］割合が減少しており、［している］［していない］の二群で比較すると、有意に［していない人］の割合が増加。

（３）　家事などの協力についての自己評価（表１２）

①　６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

協力の自己評価は、立会い群では［協力したいが、仕事の都合でできなく残念］という割合が多く４４％、次に［当然なこと大したことではない］［努力している、

よくやっていると思う］が各々２５％。非立会い群では［残念］が３９％、次は［当然のこと］２９％、［努力している］１６％。また、［できればしたくないが仕方がない］というのは立会い群では４％だが、非立会い群では８％。

② １カ月時と６カ月時の両群の比較

立会い群では［協力したいができなく残念］が有意に増加し２５％から４４％。両群ともに同じような傾向を示しているが、非立会い群では［当然である］がやや増加しているが、一方で［できればしたくない］が４％から８％にやや増加している。

<妻とのコミュニケーション>

（４） 赤ちゃんの様子について妻と話しあうか

① ６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともに話しあっており、立会い群９４％・非立会い群８９％。

② １カ月時と６カ月時の両群の比較

両群とも話しあっている割合が増加している。

（５） 妻が赤ちゃんのことで心配・不安な時に相談にのっているか

① ６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群共に［相談にのっている］割合が多く、立会い群６３％・非立会い群５２％。

② １カ月時と６カ月時の両群の比較

両群共に［相談にのっている］割合が増加。

（６） 育児の方針等について話しあうか（新）

① ６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群ともに話しあっている割合が多く、立会い群８５％、非立会い群７２％。

（７） 育児の考え方や育児の仕方が妻と意見が違うことがあるか（新）

① ６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群とも［どちらかというとない、ない］が多く、立会い群９２％・非立会い群８９％。立会い群の方が、意見の違いが［ない］とした割合が４０％で多い傾向がある。

（８） 夫婦で共有する生活経験の変化（表１３）

① ６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

両群とも共有する経験が増えたきたと思っている割合が多いが、［増えてきた］か［減ってきた］かの二群で比較すると、［減ってきた］とする割合は有意に立会い群の方が少ない。

② １カ月時と６カ月時の両群の比較

両群ともに変化は見られないが、両群ともに［減ってきた］割合がやや増加。

自分自身の気持ち等の変化

（９） 最近の自分自身について（表１４）

① ６カ月時の立会い群・非立会い群の比較

妻との親密性、共感性、役割意識、自己確信、達成への意欲等からなる項目を作成し、５段階評価で検討。

妻との親密性をみる項目の［妻と離れると穴が開いたように感じる］では、立会い群では平均得点が0.4 で、非立会い群では-0.2であり、立会い群の方がやや穴が開いたように感じるという親密性を表わす得点が、非立会い群に比べ有意に高い。

自己確信を見る項目の［自分に誇りがある］でも、立会い群の得点が有意に高い。同様に［使命感を持って生活をしている］という項目では、全くそうは思わないという使命感を持っていないと回答した割合が立会い群では０で、非立会い群では８％であり有意に使命感を感じていない人の割合が後者の方が多い。

表に見るように多数の項目でその肯定的平均得点数が立会い群の方がやや高い傾向を示している。［うまくやれる自信］［人の話が素直に聞ける］等の項目ではやや非立会い群の方がやや高い得点になっている。

② １カ月時と６カ月時の両群の比較

両群ともに１カ月時と６カ月時の間に得点に若干の上下はあるが、有意の差は認められない。

１カ月時に、両群に有意の差が認められた［やるぞという気持ちが沸いてくる］［家族の期待に応えている］［使命感を持っている］の項目では、今回は有意の差は認められなかった。

Ⅳ 考 察

１ 子どもとの関わり・世話・心配・愛着

（１） 子どもとの関わり

［あやす・遊ぶ］［話しかけ］など子どもとの関わりは、立会い群・非立会い群ともによく関わっている。どちらかというと立会い群の方が［よくあやし・遊んでいる］［よく話しかけている］割合が多い。

１カ月時との比較では、両群ともあやしたり・遊んでいる割合が多くなっており、特に「よく話しかけている」父親の割合が両群ともに有意に増加している。

赤ちゃんは交流する能力も育ってきており、外界に対して探索も活発になってきている。父親は関わることで相互に交流することを体験ができるようになるので、多くの父親は１カ月時に比較し子どもとの関わりが増えるのであろう。

［あやす・遊ぶ］ことが出来なかったとした父親１０例について、［話しかけ］［世話］［赤ちゃんといて楽しいか］［子どもが好きか］について検討。そのうち５例は［話しかけをし］［赤ちゃんといると楽しく］［子どもはどちらかというと好き］と回答しているが、［世話］は多忙で十分に出来ない回答。また、３例は「子どもといると楽しい」［子どもはどちらかというと好き」だが、あやしたり話しかけたり世話は十分にはできないと回答。この８例は子どもに対して関心が低いわけではなく、多忙により十分に遊んだり関われないということが推察できる。残りの２例は［子ももはどちらかというと好き］以外の項目では否定的回答である。

（２）　子どもの世話

［赤ちゃんの日常の世話］［具合の悪い時や泣きやまない時の世話］などは、両群ともに世話をしており、立会い群の方が世話をしている割合が多い。

１カ月時との比較では、立会い群がよく世話をする割合が減少し、非立会い群ではやや増加している。立会い群では仕事の多忙もあるだろうが、自己評価が厳しいのではないだろうか。とにかく、非立会い群において世話をする割合が増加したことは認められる。

［泣きやまない時の世話］でも両群ともに世話をしており立会い群の方が割合が多い。１カ月時との比較では両群ともに［世話をしない］が有意に減少している。

両群ともに６カ月になるに従い、父親も子どもとの生活に慣れ子どもの世話をしている割合が多くなってきている。

（３）　子どもに関しての心配

［赤ちゃんが眠っている時でも遊んでいる時でも絶えず心配か］［順調に育っているか心配か］［赤ちゃんのことで何か気がかりなことがるか］という項目について検討。

立会い群は［～絶えず心配である］割合が多く５６％であり、また［あまり心配ではない］という父親の二極に別れる。非立会い群では［～絶えず心配ではない］割合が多く６１％。しかし、４段階評価の４段階の［心配ではない］とする割合は立会い群の方が多い。

立会い群では、子どもに関心が高いがゆえにその関心の程度が子どもはどうしているかという気づかいとして現れる父親と、子どものことに日頃関心を示しているので心配ではないと思う父親の二極に分かれると考えられる。

しかし［順調に育っているか心配か］という項目では両群ともに心配と回答した割合が多い。順調かどうかはこれからの発達という未知の部分をはらんでいるので、心配という割合が多いのは妥当であろう。

それでも［心配にならないという］割合は、有意に立会い群の方が多い。立会い群は心配になる割合も非立会い群より少なく心配する程度が低い傾向がある。１カ月時との比較では、非立会い群で有意に心配している割合が減少しており、両群ともにゆとりも出てきたのであろう、心配する程度が低くなってきている。

父親の子どもに関しての心配の割合が高いのは、この子どもの発達年齢では当然であり、発達に従い心配内容や程度が変わる。立会い群と非立会い群では子どもへの関心の持ち方に違いがあるのか、心配の程度などに違いが見られる。前者は二極に分かれる傾向がある。

（４）　子どもと過ごしている時の気持ち

［赤ちゃんとの相手をしたり・世話をするのが楽しいか］［赤ちゃんと過ごしている時の気持ち］について検討。両群ともに楽しいという割合が多く、立会い群の方がその割合が多い。また、立会い群では子どもといると［楽しい］［エネルギーを感じる］という項目のほかにも子どもといる時の気持ちに肯定的感情を示しその得点も高い傾向を示す。

１カ月時との比較では、両群ともに［負担に感じる］程度がやや高くなっている。赤ちゃんの運動量・活動両量なども多くなり大変さの実感が出てきている。

子どもと過ごしている時の気持ちにおいても、両群同傾向を示していながらも立会い群の方が、子どもに対する肯定的感情の程度が高い傾向が見られる。

２　新しい家族がスタートしてからの生活への適応、自分自身の変化など。

（１）　生活への適応

両群ともに生活の変化に［戸惑っていない］割合が多い。１カ月時との比較をすると立会い群は戸惑いの割合に変化は見られないが。だが、非立会い群では［戸惑わない］という割合がやや増加しているが、［戸惑っている］割合は、有意に増加している。

立会い群の父親は子ども生まれ家族の状況が変化しても、その変化を楽しんでいる（48%）・予想していたので(40%) 戸惑わないと回答していることからも、適応性が高いのではないだろうか。

（２）　家事の協力、協力の仕方の自己評価

立会い群の方が家事の協力をしている割合が多い。特に［していない］割合は有意に非立会い群の方が多い。子どもの世話でもしていない割合が２２％で多い。家事の協力でも［協力できない］割合は立会い群３３％・非立会い群５４％であること。また、立会い群でも１カ月

時よりも協力の程度がやや低下しており、仕事を持つ父親・夫が家庭の仕事を責任をもって果たしていくことが大変であることが推察できる。

家事に協力出来ないことについて［残念］という自己評価をしている割合は、立会い群４４％・非立会い群３９％である。できればしたくないが協力せざろうえなくて不本意ながらしている夫は少ないが、比較をするとやや非立会い群の方が多く、また１カ月時よりやや増加している。

両群の夫の多くは、家事の協力などに抵抗なく当然のこと・なるべく協力したいという思いがあるように伺える。だが、非立会い群ではやや家事などしたくないという考え方が見られる。

（３）　妻とのコミュニケーション

［赤ちゃんとの様子についての話し合い］［妻が赤ちゃんのことで心配な時に相談にのっているか］［育児の方針について話し合うか］［育児の考え方などで意見のくい違いがあるか］［夫婦で共有する生活経験の変化は］という項目で検討。

両群ともに子どものことについて夫婦で話し合っており相談にものっており、また意見のくい違いも少ない。１カ月時との比較でも両群ともに話し合いなどの割合が増加している。

妻とのコミュニケーションにおいても、立会い群の方がコミュニケーションをとっている割合が多い傾向。

［夫婦で共有する生活経験の変化］では、両群ともに増えてきたと思っている割合が多い。だが、［減ってきた］と思っている割合は非立会い群の方が有意に多い。立会い群では、１カ月時との比較でもこの変化の受け止め方の割合は変わらない、また前述の［生活の戸惑い］に関しても変わらない。夫婦の関係や生活にたいする態度・受け止め方等に、この群の父親は、自分のライフスタイルを持ち、それも柔軟性のあるもののように推察される。

（４）　最近の自分自身について

妻との親密性、共感性、役割意識、自己確信、達成への意欲などについての検討では、立会い群は妻との親密性を求める程度がやや高く、［自分に誇りがある］［使命感を持っている］など自己確信に関して肯定的に受け止めその得点は非立会い群に比べ高い。

Ｖ　ま　と　め

前述した二つの分析視点よりこの出生後６カ月時の父親のアンケート結果より次のような示唆が得られた。

１　子どもとの関わりや生活への適応について

（１）　子どもとの関わり

①対象全体

両群ともによく関わっており、１カ月時よりも関わりが増えて来ている。

［子どもの世話］に関しては両群ともに世話をしており、泣きやまない時などの世話も１カ月時に比べよく世話をしている。

［子どもに関しての心配］では子どものことが絶えず心配かどうか、１カ月時に比べると心配にならない人の割合が両群ともに有意に増えている。

［子どもと過ごしている時の気持ち］も両群ともに１カ月時に比べ肯定的感情の得点が上昇している。

＊子どもの発達そして父親が子どもとの関わりの経験が増えるにしたがい、両群の父親ともに子どもとの関わりあいなど１カ月時に比べ増えている傾向がみられる。

＊あやしたり、遊ぶことをしていないという父親の回答を分析すると、その背景に仕事の多忙さということが考えれる。子どもに対する関心等がないのではなく、よく関わったり世話をする時間がないということであろう。世話についても１カ月時に比べ世話をしている程度がやや低下する傾向がある。父親（夫）は子どもに関心を持ち関わりたいという気持ちもあるが、仕事があり現実には十分に関われない状態がうかがわれる　。

②両群比較ーー立会い群の特徴

両群を比べると、立会い群の方がより子どもとの関わりや世話をしている割合が高い傾向がある。また、立会い群では子どもに対する肯定的感情の得点が非立会い群に比べ高い。そして、子どもに関する心配の有無で約半数が心配であるとしている。

立会い群は、非立会い群に比べ子どもへの関心が全体的に高い傾向があると考えられる。

立会い群では、生活の変化に対する適応性が高く、また妻とのコミュニケーションをよくとっている。自分に対する誇りや使命感など自己確信に関して肯定的に受けとめている得点が高い。

立会い群の父親の子どもの世話や家事の手伝いなどに関しての積極性は、１カ月時に比べやや低くなったとはいえ、１カ月時の結果とほぼ同傾向を示している。子どもとの関わり、世話、生活への適応、自己確信、妻とのコミュニケーションなど、調査項目全般にわたって非立会い群に比べより肯定的な傾向を示している。

2　父親の子どもとの関わりとその今日的意味

あやしたり、話しかけたりしている父親は全体では約９０％で父親たちの子どもとの関わりあいが多いことが調査より示唆されている。だが、アンケート調査なのでこの回答は父親の主観であることは否めない。

マターナル・アタッチメントの概念である、子どもにどのような愛着・どのような情緒的応答性をもって関わり、またどのような共感が生まれ、適切なコミュニケーションをしているか、それによってどのような愛着が乳幼児側に生まれ満足するのかなどといった視点をもって父親の行動を観察的に調査したものではない。調査対象の多くの父親がどのような形であれ、子どもとの愛着的行動や関わりあいを持っているというという結果を踏まえ、父親の子どもとの関わりあいついてその今日的意味を考えたい。

マータナル・アタッチメントの概念は、乳幼児のアタッチメント（愛着）に対してどのように対応するか・どのような応答をしていくかといった母親あるいは養育者のどのような機能が乳幼児のアタッチメントを満たすのかという、母親・養育者側の心理・態度に視点をおいている考えである。

われわれが調査をした出生６カ月頃は、乳児は積極的な活動性を発揮し、ほほえみかけたり、おとなの応答にたいして笑ったり・視線を合わせたり・見つめたり・満足した表情など、乳幼児からの情緒的・社会的反応が豊かになっていく時期である。そして愛着を向けられたおとなたち（母親・養育者）の多くはそれに反応したい欲求が生まれ、情緒的応答性が高まり、抱いたりあやしたり話しかけたりと子どもとの関わりが出てき、おとなの方も満足を得ていく。

乳幼児の情緒発達研究において精神分析アプローチとシステム的アプローチを統合し実証的研究をしている R.Emde は、おとなが赤ちゃんに何か関わりたくなるような（抱く、あやす、話しかけるなど）何かを赤ちゃん自身が持っており、そしておとなは赤ちゃんに関わることによっておとな自身も満足する。赤ちゃんの存在がおとなに心理的な満足を与えており、何か報酬を与えるようなものを赤ちゃんの中にあるという概念を提案している。この何かを与えることを＜reward報酬＞とEmdeはいっている。

この＜reward報酬＞はおとな側（母親・養育者）のアタッチメントの形成、そして情緒応答性（emotional availability）を促進させること、そして乳幼児との関わりあいの質と量に何らかの影響を及ぼすのではないかと考えられている。

われわれの調査で出生１カ月時よりも６カ月時の方が父親の関わりあいが増えているのは、この子どもからの＜reward報酬＞により、父親側の情緒応答性が刺激され活発になっていることも考えられる。

＜マターナル・アタッチメント＞の意味と重要性などについてはこの調査の主たる目的ではないので詳細については割愛するが、乳幼児にとっておとな（母親、養育者）から与えられる適切な情緒応答性は、子どもの心身の発達にとって必要であることはJ.Bowlbyや乳幼児の心の発達の研究者らによって広く知られている。

しかし、現代の女性（母親、母親になろうとしている人も含め）が適切な情緒応答性を発揮し、子どもも本人も充足感を満たされるようなマターナル・アタッチメントを十分に発揮できない・育てにくいという環境がある。核家族化や共働きにより、子育て・家庭生活の主たる担い手は女性であり、また支援システムは未開発であり女性はゆとりを持って子どもに関われない。

日本の社会では、若年労働力の低下・高齢者人口の増加などの理由により、女性の就業率はますます高くなっていくことが予想されている。しかし、子育て・家庭生活への支援システムなどは、やっと労働力人口や出生力の低下の危機から考え始められたところである。

女性が職業を持ち自分の可能性・能力の開発・社会への貢献など、女性自身がその諸能力にチャレンジしていくことも社会的に評価される時代になってきており、男性と同様に競争論理の環境の中で、職業的に自立した人間としてのあり方が女性自身に個人的に問われている。

女性は、つい最近までは子どもを生み育て家庭生活を築いていくことに価値があると評価され＜守り＞の態度が尊重されていた。だが今や競争社会で働く＜攻め＞の態度が要求されている。女性自身の中にアンビバレンツなものが起きてきている。また、社会の価値感などが変化して多様な価値観を選択できる環境に育った女性は、子育て、家庭生活、仕事をすることなどは多様な生き方の多数の選択肢の一つとして考えられるような時代になってきている。

女性は子どもを生み・育てていくことを社会的に期待されつつも、前述したような環境の中で個人的責任のもとで子どもを育てていかねばならない。子どもを育てることが大事だという価値観を持ち、子どもが好きだという女性であっても、安定した環境のもとで子どもに適切な情緒的応答性を持って関わり、子どもへの愛着＝マターナル・アタッチメントを満たしていくことは大変であろうと予測される。

本調査において母親のアンケートを分析すると、子ど

もへの関わり・世話などは両群共に十分にしていると回答し、また子どもに対しても肯定的感情を示しているが、子どもと関わっていて＜疲れる＞とした人は４８％・＜犠牲になっている感じ＞１８％・＜イライラする＞１６％・＜負担に感じる＞１３％であった。子どもを育てている母親の大変さ・気持ちの不安定さが伝わってくる。母親の個人的精神状態の問題だけとは言い切れない面（疲れ－48%）があり、十分に保護・支援された安定した環境とはいえないのではないだろうか。

女性がマターナル・アタッチメントを発揮していくには、他に子どもの側の問題や母親自身の心の問題なども考慮していかねばならないが、現代の日本の女性がマターナル・アタッチメントを発揮していくには不十分な環境にあることは考慮されるべき課題である。

不十分な環境とはいえ、子どもの心の発達にとって環境を調えることは、おとなや親にとって大切である。

子どもの身近にいる養育者である父親が、子どもに関わること、そして母親（妻）と協力して家庭生活を営むことを努力してみることは、子どもの環境つまりマターナル・アタッチメントの環境を調える要素として重要であろう。父親による子どもへの関わりが、どのようなアタッチメントを子どもと父親にもたらすか、また父親の関わりがマターナル・アタッチメントに替われるものか、補完的なものなのかなどについては今後の研究による。

また、伝統的な養育システム・環境が急速に変貌して行く現代にあって、新しい養育システムをどのように作っていくか、養育環境の援助体制、乳幼児と養育者との関係についての総合的・科学的・臨床的研究などが課題である。

（表１）　集計の対象

	回答の内訳	立会い群	非立会い群	計
出生１カ月時		７６例	１５１例	２２７例
出生６カ月時	夫婦で回答あり	４８ 63.2%	８３ 55.0%	１３１
	妻のみ回答あり	３ 3.9%	９ 6.0%	１２
	夫婦共回答なし	２５ 32.9%	５９ 39.1%	８４

注）＊出生６カ月時のアンケート総回収数は１４３例（回収率６３％）
本報告では、夫の資料を集計対象とするので１３１例が対象数

（表２）あやしたり・遊ぶ

	６カ月時		
	計 131 例	立会い 48 例	非立会い 83例
よくしている	51.9%	60.4%	47.0%
どちらかというとしている	40.5	33.3	44.6
どちらかというとしていない	7.6	6.3	8.4
していない	-	-	-
N. A	-	-	-

（表３）話しかける

	６カ月時			１カ月時	
	計 131 例	立会い 48 例	非立会い 83例	立会い 76 例	非立会い 151例
よくしている	74.8%	83.3 *1	69.9 *2	59.2 *1	47.3 *2
どちらかというとしている	20.6	12.5	25.3	30.3	35.1
どちらかというとしていない	3.8	4.2	3.6	3.9	9.5
していない	-	-	-	0.1	-
N. A	0.8	-	1.2	5.3	9.9

注）*1　立会い群の　６カ月時と１カ月時－χ^2　$P<0.05$
*2　非立会い群の６カ月時と１カ月時－χ^2　$P<0.05$

参考文献

1) Call, J. D., Galenson, E., Tyson, R. L., (by ed.) : Frontiers of Infant Psychiatry, 1983, Basic Books, Inc. Publishers, New York.
小此木啓吾監訳：乳幼児精神医学，1988，岩崎学術出版.

2) Emde, R. N,. : Reflections mothering and on reexperiencing the early relationship esperience. Infant Mental Health Journal, 9 (1), 4-9, 1988.

3) 小此木啓吾他：周産期の臨床と父親の役割，周産期医学，18 (1)，115-119, 1988.

4) D. B. リン（今泉信人他訳）：父親－その役割と子どもの発達、1986、北大路書房

（表４）赤ちゃんの日常の世話

	６カ月時		
	計 131 例	立会い 48 例	非立会い 83例
よくしている	35.9%	43.8%	31.3%
どちらかというとしている	45.0	41.7	47.0
どちらかというとしていない	13.0	6.3	16.9
していない	6.1	8.3	4.8
N．A	-	-	-

（表５）具合の悪い時や泣きやまない時の世話
（１カ月時－夜中むずかった時の世話）

	６カ月時			１カ月時	
	計 131 例	立会い 48 例	非立会い 83例	立会い 76 例	非立会い 151例
世話をする	61.6%	66.7	57.8	10.5	31.4
妻が大変なので世話をする	32.8	31.3	33.7	27.6	34.5
わからないので世話をしていない	6.1	2.1**¹	8.4**²	35.5**¹	19.6**²
関わりたくないので世話をしない	-	-	-	21.1	5.4
N．A	-	-	-	5.3	9.9

注）**¹ 立会い群の　６カ月時と１カ月時－χ^2　P＜0.01
　　**² 非立会い群の６カ月時と１カ月時－χ^2　P＜0.01

（６）赤ちゃんのことが絶えず心配か
（１カ月時－くしゃみ等ちょったしたことが心配）

	６カ月時			１カ月時	
	計 131 例	立会い 48 例	非立会い 83例	立会い 76 例	非立会い 151例
心配になる	16.0%	10.4	19.3	31.6	25.0
どちらかというと心配になる	25.2	35.4	19.3	31.6	39.2
どちらかというと心配にならない	34.4	20.8	42.2	23.7	23.0
心配にならない	24.4	33.3**¹	19.3**²	7.9**¹	4.7**²
N．A	-	-	-	5.3	9.9

注）**¹ 立会い群の　６カ月時と１カ月時－χ^2　P＜0.01
　　**² 非立会い群の６カ月時と１カ月時－χ^2　P＜0.01

（８）赤ちゃんの相手をしたり・世話をするのが楽しい
（１カ月時－様子を見ているのが楽しい）

	６カ月時		
	計 131 例	立会い 48 例	非立会い 83例
よくしている	66.4%	77.1	60.2
どちらかというとしている	29.8	22.9	33.7
どちらかというとしていない	3.1	-	4.8
していない	0.8	-	1.2
N．A	-	-	-

（７）順調な発育かどうか心配か

	６カ月時			１カ月時	
	計 131 例	立会い 48 例	非立会い 83例	立会い 76 例	非立会い 151例
心配になる	30.5%	22.9	34.9	36.8	52.3
どちらかというと心配になる	40.5	43.8	38.6	36.8	27.2
どちらかというと心配にならない	23.7	22.9	24.1**	11.8	7.9**
心配にならない	5.3	10.4*	2.4*	9.2	2.0
N．A	-	-	-	5.3	10.6

注）＊ ６カ月時－χ^2　P＜0.05
　　** 非立会い群の６カ月時と１カ月時－χ^2　P＜0.01

（９）赤ちゃんと過ごしている時の気持ち

	６カ月時	
	立会い 48例	非立会い 83例
いとおしい	1.75	1.87
不安になる	** 1.54	** 1.06
イライラする	1.42	1.22
一緒にいたい	1.58	1.49
自信がない	1.63	1.49
気持ちがなごむ	1.67	1.56
慢性になっている感じ	1.43	1.41
楽しい	* 1.81	* 1.66
可愛い	1.88	1.91
煩わしい	1.27	1.34
守ってやりたい	1.83	1.66
疲れを感じる	0.63	0.71
喜びを感じる	1.78	1.63
負担に感じる	1.35	1.34
エネルギーを感じる	** 1.79	** 1.48
あとには引けない感じ	0.15	0.23

注）＊＊Ｔ検定危険率５％（両側）有意
　　＊　Ｔ検定危険率５％（片側）有意
注）４段階評価（＋２～－２）
注）否定的項目の得点は、高得点に従い肯定的反応として換算

（１０）生活の変化に戸惑いを感じているか

	６カ月時			１カ月時	
	計 131 例	立会い 48 例	非立会い 83例	立会い 76 例	非立会い 151例
戸惑っていない	64.1%	66.7	62.7	61.8	47.0
どちらかというと戸惑っていない	22.9	25.0	21.7	26.3	33.8
どちらかというと戸惑っている	12.2	8.3	14.5 *	3.9	7.3 *
戸惑っている	-	-	-	1.3	2.0
N．A	0.8	-	1.2	6.6	9.9

注）＊ 非立会い群の６カ月時と１カ月時－χ^2　P＜0.05

（14）最近の自分自身について

	6カ月時	
	立会い 48例	非立会い 83例
妻と一緒にいたい	1.45	1.37
妻と離れると	*1 0.30	*1 -0.15
自分に確信がある	1.28	1.11
自分に誇りがある	*1 1.17	*1 0.90
決断ができる	1.45	1.33
責任がもてる	1.51	1.49
人生の目標がある	1.09	1.01
うまくやれる自信	0.55	0.71
人と気持ちを共有したい	0.36	0.17
話しを率直に聞ける	0.96	1.10
頑張りたい	1.50	1.43
やるぞという気持ちがわいてくる	1.30	1.16
人のために力になれる	1.04	0.97
思いやりある	0.96	1.01
家族の期待に応えている	0.85	0.81
使命感がある	*2 0.96	*2 0.89
悩みを共有したい	1.33	1.20
喜びを共有したい	1.66	1.50

注）*1　T検定危険率5％（片側）有意
　　*2　χ^2 P＜0.05（-2）の評価をした割合が非立会い群に多い

（13）夫婦で共有する生活経験の変化

	6カ月時		
	計 131例	立会い 48例	非立会い 83例
とても増えてきた	29.8%	31.3	28.9
どちらかというと増えてきた	45.0	52.1	41.0
どちらかというと減ってきた	17.6	8.3*	22.9*
減ってきた	-	-	-
その他	0.8	2.1	-
N．A	6.9	6.3	7.2

注）＊ 6カ月時－χ^2 P＜0.05

（11）家事などの協力

	6カ月時			1カ月時	
	計 131例	立会い 48例	非立会い 83例	立会い 76例	非立会い 151例
している	25.2%	31.3	21.7	38.2	25.2
どちらかというとしている	28.2	35.4	24.1	32.9	30.5
どちらかというとしていない	36.6	31.3	39.8	15.8	23.2
していない	9.9	2.1*1	14.5*1 *2	6.6	9.9 *2
N．A	-	-	-	6.6	11.3

注）*1　6カ月時－χ^2 P＜0.05
　　*2　非立会い群の6カ月時と1カ月時－χ^2 P＜0.05

（12）家事などの協力についての自己評価

	6カ月時			1カ月時	
	計 131例	立会い 48例	非立会い 83例	立会い 76例	非立会い 151例
当然のこと、大したことではない	27.5%	25.0	28.9	36.8	23.8
よくやっている努力している	19.1	25.0	15.7	27.6	19.9
協力できなく残念	40.5	43.8*	38.6	25.0*	30.5
仕方がなくやっている	6.9	4.2*1	8.4	3.9	4.0
その他	4.6	2.1	6.0	-	8.6
N．A	1.5		2.4	6.6	13.2

注）＊ 1カ月時－χ^2 P＜0.05